

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.5



市民の皆さま、こんにちは。

桜花爛漫の季節を迎え、日本さくら名所100選の一つにも数えられる金木芦野公園の桜は、今年も美しい花を咲かせました。新型コロナウイルスの感染防止のため、例年とは異なり園内での飲食が禁止となるなど制限が設けられていますが、桜の美しさに変わりはありません。お越しの皆さまには、引き続き、感染防止対策の徹底にご協力をお願いします。

さて、都市部から地方に移住して地域振興のために活動する「地域おこし協力隊」をご存知でしょうか。

当市においても、自らのスキルを活かしながら地域おこしに大いに活躍した2名の協力隊が、この3月末に3年間の任期を全うし退任しました。

そこで今年度は、新たに4名の地域おこし協力隊を募集します。今回の募集については、赤～いりんごや太宰、金木および市浦の観光振興などあらかじめ3種類の活動テーマを設定した形で行い、五所川原、金木および市浦で活動してもらいます。

コロナ禍の影響により、「集う」ことが制限され、テレワークやオンライン、デジタル通信など、コミュニケーションの形態が大きく変化しました。

また、さまざまなイベント等の自粛により、地域での集いやコミュニティ活動の機会が減少し、人と人との温かみのある交流がどうしても少なくなっている気がしています。こうした中であるからこそ、地域おこし協力隊には、地域住民と積極的に交流し、そこから生まれる信頼関係をしっかりと構築した上で、地域住民を主役とした地域活性化や地域再生、魅力発信をプロデュースしてもらいたいと思っています。

さて、当市の魅力の情報発信を進める上で、各地

域で受け継がれている伝統行事などを、地域の枠を超えて、幅広く市民の皆さまにも知っていただきたく、一部ですが、今回と次回の2回にわたって、ご紹介したいと思います。

まずは、市浦地区で行われている主な祭事や行事をご紹介します。約450年の歴史を誇り、津軽一円で行われている虫送りの原型ともいわれている「相内の虫送り」をはじめ、鎌倉末期、津軽三千坊といわれた山王坊が繁栄の頃から相内地域に伝わる盆踊り「相内の坊様踊り」、脇元岩木山の呼称を持つ「霧山^{もやま}」で五穀豊穡と大漁を祈願して行われている「脇元お山参詣」、鎌倉末期から室町時代にかけて全国七湊の一つとして繁栄した十三地域に伝わる「十三の砂山まつり」等々、長年にわたり地域に伝わる行事や、地元の有志により、国指定史跡・山王坊遺跡のある山王坊日吉神社で開催される津軽豊年祭「お田植祭」ならびに「抜穂祭」など、市浦地区には魅力ある地域資源、伝統行事が数多くあります。

私もこれらの行事にはほとんど参加をさせていただきましたが、古^{いにしへ}から受け継がれた伝統文化や行事はもちろんのこと、それをしっかりと地域の誇りとして受け継いできた風土と住民の奥深い地元愛もまた貴重な財産であると感じています。そうした地域資源を守りながら、絶やすことなく後世に継承していくため、できる限り支援したいと思っています。

今後は、地域おこし協力隊をこれまで以上に積極的に活用しながら、市民と行政が協働で各地域の特性、歴史や伝統文化などを活かした地域振興策を講じていきたいと考えていますので、市民の皆さまにも、市の魅力発信と地域活性化にご理解とご協力をお願いします。

次回は、五所川原、金木地区をご紹介します。



『相内の虫送り』の様子



『津軽豊年祭「お田植祭」』の様子